



No. 153 2024.1
(株) よかネット

NETWORK

気候変動への適応と緩和

～地球温暖化対策関連の計画づくりをお手伝いしています～ 2

見・聞・食

九州まちづくり塾 IN 関門 4

近況

秋の霧島・白鳥山登山と焼酎蔵を楽しむ 6

向田邦子氏のエッセイ ～「わたしと職業」に共感～ 7

婚姻と子ども育成支援 8

オタ活復活！ 9

地域資源を活かし域外から稼ぐご支援を 9

あけましておめでとうございます 10

今年こそは、「酒まつり」！ 10

新しい年のはじめに 13

福岡愛が芽生えた理由と今年度の目標 13

昨年の振り返りと今年の抱負 14

移動スタイル変わってきてます 14

お知らせ

勝馬ルシェを開催します！ 16

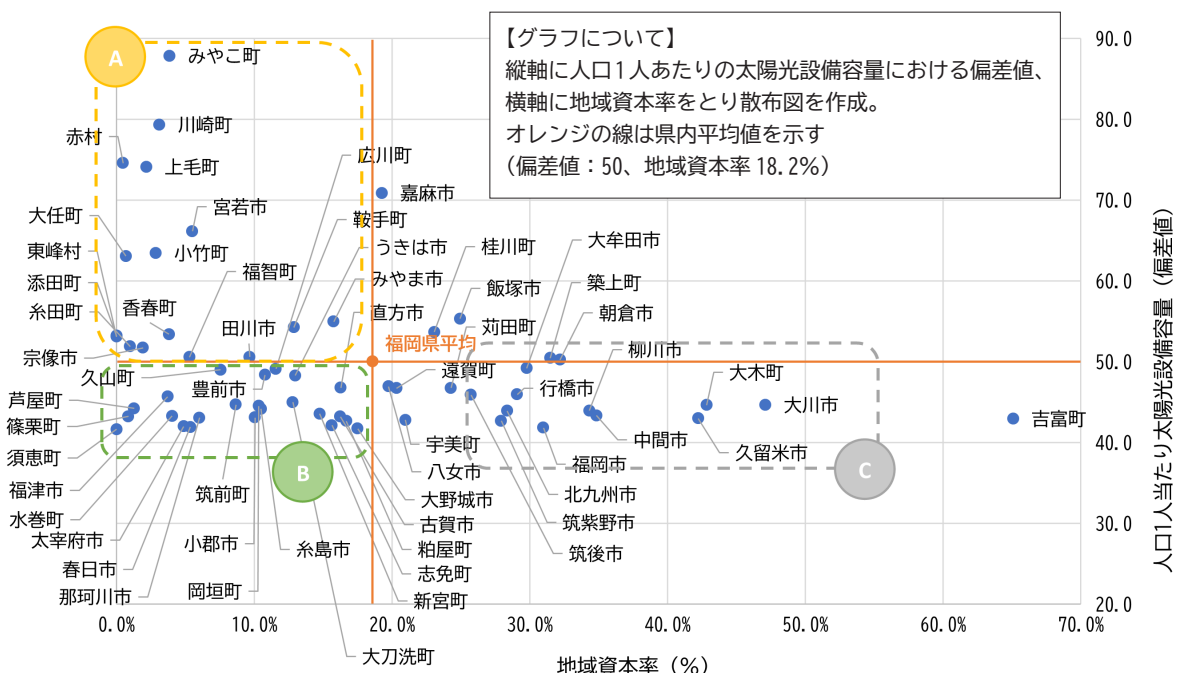
●再生可能エネルギーからみる地域経済循環

福岡県内自治体における太陽光発電設備の導入状況について、設備容量と設置主体（＝地域資本率、用語定義は4頁に記載）に着目して整理をしてみた。

太陽光発電設備の導入は進んでいるものの地域資本率の低いAグループには、筑豊地域の自治体が多く含まれている。これについては、ボタ山跡地等の低未利用地が域外の企業によりメガソーラー用地として利用されているケースも多いようである。しかしながら、同じ筑豊地域である飯塚市や嘉麻市、桂川町などは導入が進んでいる、かつ地域資本率も県内平均値を超え、高い状況にある。

一方で、設備導入はあまり進んでおらず地域資本率も低いBグループには、福岡都市圏の自治体が多く、低未利用な開発可能用地が少ないことが要因と考えられる。

また、設備導入はあまり進んでいないものの地域資本率が高いCグループにはA・Bグループほど顕著ではないものの筑後地域の自治体が多い傾向にある。



図：県内における太陽光設備容量と地域資本率の相関（出典：資源エネルギー庁「事業計画認定情報」より当社作成）

気候変動への適応と緩和

～地球温暖化対策関連の計画づくりをお手伝いしています～

櫻井 恵介

2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロとする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。その動きに連動し、ここ数年、地方自治体においても脱炭素に係る戦略や地球温暖化対策実行計画等の策定・改定の業務が多くなっています。

当社においても、グループ会社である（株）地域計画建築研究所（通称：アルパック）の各チームと共同で、関連業務に携わる機会が増えてきました。本稿では、いくつかの業務に携わる中で感じた視点などについて整理してご紹介させていただきます。

●キーワードは「1.5℃以内」

2021年の国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）において採択されたグラスゴー気候合意では、産業革命前に比べ気温上昇を1.5℃以内に抑える目標が決議されました。

その目標の達成に向けて、日本においても2030年の温室効果ガス排出量を2013年比で46%減、2050年には100%減とする目標値を設定しています。

また、公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）が2023年12月6日に発表したテクニカルレポート「IGES1.5℃ロードマップ：日本の排出削減目

標の野心度引き上げと豊かな社会を両立するための「アクションプラン」（以下、1.5℃ロードマップ）では、「エネルギー供給技術による脱炭素化のみならず、デジタル化を起点とする様々な付加価値やサービス向上を指向した社会経済を構築することで、2035年に2019年比60%以上（2013年比70%以上）」という非常に野心的なシナリオが提示されました。

1.5℃ロードマップでは、電力における主要なマイルストーンとして2025年「野心的な再エネ目標設定」、2050年「再エネ比率9割」が示され、屋根置き太陽光発電や浮体式洋上風力発電がその中心となるとされています。

このように国際的、あるいは政府の動きは加速度的に進んでいますが、我々がお手伝いした自治体では、このスピード感に対して戸惑いを感じているケースも多いように思われます。

また、前述の1.5℃ロードマップのマイルストーンに示されている通り、地球温暖化対策においては、環境部門にとどまらない、分野横断的な取り組みが必要となります。一方、担当課以外ではなかなか自身の業務と結びつきづらいという話もありますし、いかに、そこを啓発していくかも重要なポイントです。

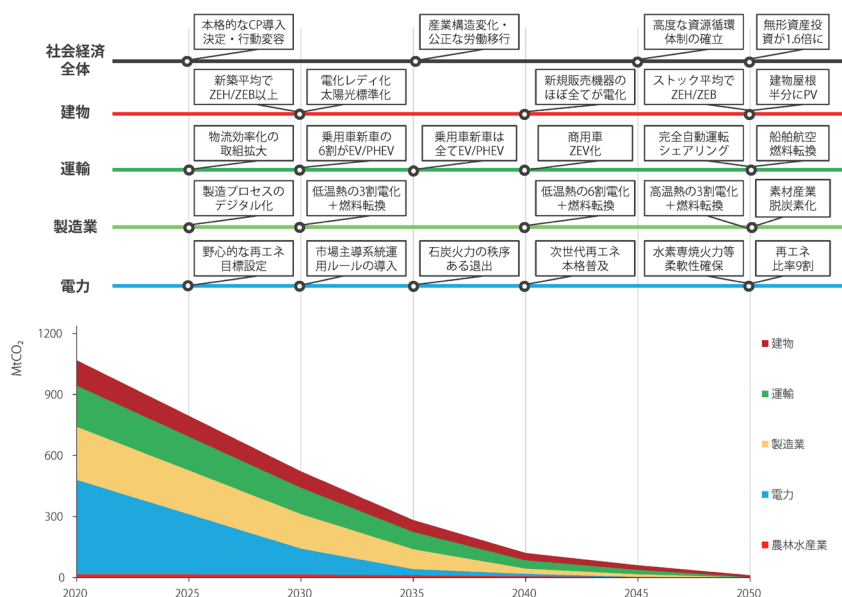


図1：1.5℃ロードマップ（バランスシナリオ）における、部門ごとのエネルギー起源CO2排出量時間変化と主要なマイルストーン（出典：IGES 1.5℃ロードマップ）

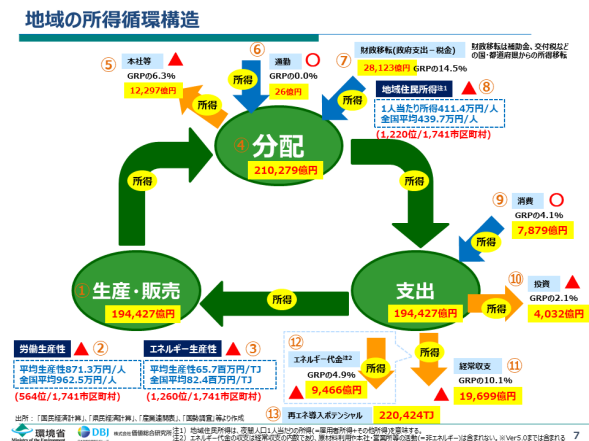


図3：福岡県の所得循環構造（出典：環境省「地域経済循環分析自動作成ツール」）

との因果関係を分析していくという中長期的な取り組みがポイントとなります。また、広域的視点も重要となりますので、データや知見をどのように蓄積していくか、プラットフォームとして誰が運用していくかもポイントとなります。

●いかに地域経済を回すか、地域経済循環の視点

先に述べた通り、地球温暖化については、多岐の分野に横断的にまたがる課題となっています。また、行政だけでなく住民や事業者など、様々なステークホルダーによる取組が重要となりますが、脱炭素を推し進めることで、住民の生活が抑圧されたり、企業の成長を阻害することとなれば、投資体力の低下にもつながり悪循環となります。したがって、脱炭素を地域の成長戦略と捉え、地域課題を解決しつつ、経済の循環につなげていくことが重要となります。そのためにも、地域内におけるお金の流れを「見える化」し、地域経済の全体像を把握することが大切となります。

●再エネ設備、誰が設置しているか

前項の「地域でお金が循環しているか」にもかかわる視点として、地域内の再エネ設備を「誰が設置しているか」は重要なポイントとなります。地域外の事業者による設置では、見かけ上、地域の再エネ設備の導入容量は上がっても、結果的に電気の売上（＝所得）は外部に流れてしまいます。そのため、地域経済の観点からは地域資本率を高めていくことも重要となります。

図4は福岡県内のFIT事業計画認定情報におけ

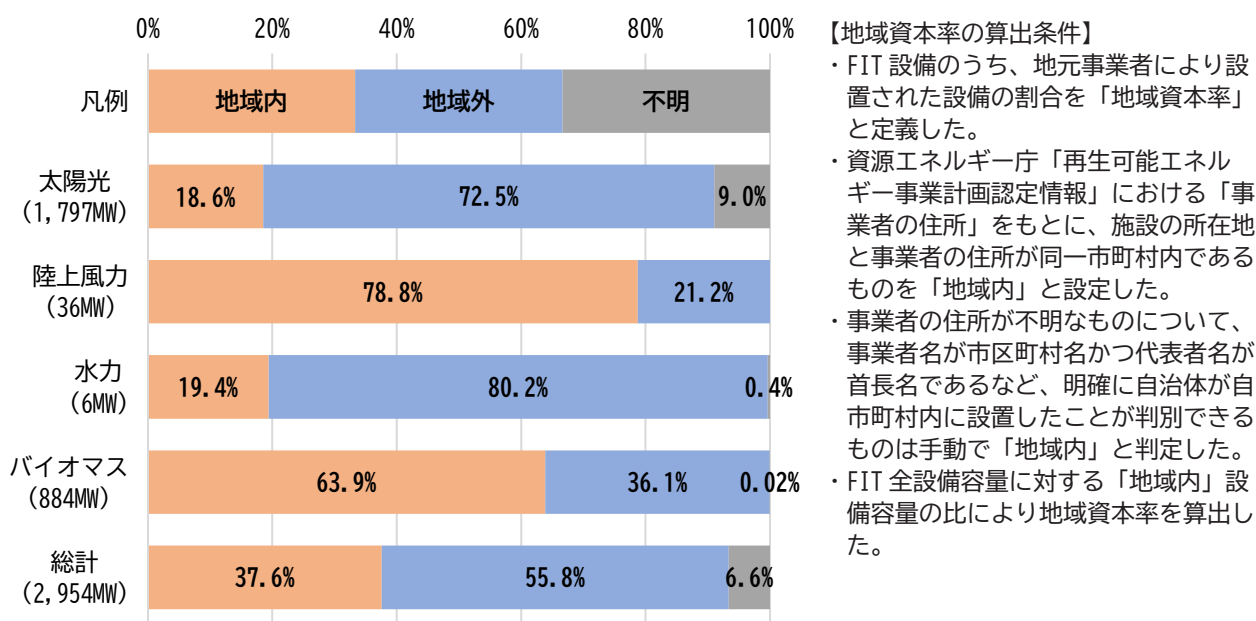


図4:福岡県内における再エネ種別の事業者所在地の状況 (出典:資源エネルギー庁「事業計画認定情報」より当社作成)

る事業者の所在地について、再エネ種別に示したものです。

陸上風力やバイオマスは事業規模から、特別目的会社等が設置し、会社の所在地＝発電設備の所在地となるケースが多く、地域資本率は高くなりますが、構成員次第では結果的に外部に所得が流れます。

また、太陽光発電は、本来的には導入が容易で地域内資本による導入が進んでもよいはずなのですが、現状は地域資本率は最も低く、特に設備容量2,000kw以上のメガソーラーと呼ばれるものについては、より低い傾向にあります。

また、地域資本とは若干異なりますが、特にメガソーラー関連では、開発により地元とのトラブルに発展している事案も見受けられます。それをきっかけに条例等を制定し開発をコントロールしているケースもありますが、それが再エネ導入の抑止力として働き、適切な導入も阻害することにつながる場合もあるようです。

●これからに向けて

以上、ここ数年で感じたポイントなどを列記しましたが、知れば知るほど様々な要素が関係し奥深い分野であるというのが全体的な感想です。また、非常に速いスピード間で状況が流れていくため、知識やデータの陳腐化も早く、常にアップデートしていく必

要性を感じています。

一方で、今後様々な計画や業務において、外せないテーマでもあるので、引き続き、業務にも携わりながら、研鑽を積んでいければと思うところです。(さくらいけいすけ)

九州まちづくり塾 IN 関門

山田 龍雄

「九州まちづくり塾」とは、九州各県の建築士会のまちづくり委員が、年1回持ち回りで集まり、現地視察及びまちづくりについての意見交換を行い、各参加者のスキルアップと交流を目的とした会です。

元々は毎年九州の各県で開催される「建築士の集い」のエクスカージョンで歴史的な建造物やまちなみを視察していたことがきっかけで、各県のまちづくり委員が中心となって設立した会です。最初は宮崎県から始まり、今年度で第8回目の開催となります。開催県は輪番制であり、2023年の担当は福岡県となっていました。

今回は、2004年から門司と下関とを挟んだ開門海峡の景観をテーマに活動をしてきた建築士会・北九州地域会、山口県建築士会下関支部の全面協力のもとに11月4日(土曜)、5日(日曜)の2日間で



木造3階建ての三宜楼 1階を料亭として活用

「九州まちづくり塾 IN 関門」を開催しました。私もまちづくり委員会の一員として、各県から来られる建築士さんをお出迎えする幟旗持ちの役割を担い、参加者を門司港駅前でお出迎えしました。

関門景観の取組みについては、北九州地域会のメンバーが中心となって、まち歩きやワークショップなどのイベントを行っていることは知っていました。

しかし、毎年50～80人の建築士会関係者や市民が参加するイベントを16回も継続し、まちなみ景観や保存活動に貢献してきたことを初めて知りました。

また、2007年には門司港レトロ倶楽部、校区自治会、建築士会、行政、大学など33の団体で構成された「門司港まちなみづくり協議会（以下「まちなみづくり協議会」）を設立しています。

「まちなみづくり協議会」は官民連携のもと門司港の歴史と景観を守る活動をしており、これまで門司港地域での新たな建物に対して景観ガイドラインをもとに事業者と協議をし、景観の維持・向上を図ってこられています。「まちなみづくり協議会」の活動で特に印象に残った協議と保存活動を2件、紹介します。

●旧福銀支店のデザインを継承した建替

福岡銀行門司支店

このプロジェクトは、長年地域に親しまれた建物の建替計画です。地元の任意団体である「まちなみづくり協議会」と福銀門司支店とが①既存建築物のデザインの継承、②営業室の1階設置、③駐車場整備と出入口の安全性などに関して対話を重ねたそうです。その結果、銀行としての機能の向上を図ると



2階の大広間

ともに、従前の歴史的価値を尊重した設計がなされています。この協議の結果、昔と変わらず門司港の景観にとけこむ姿が2022年第7回北九州市都市景観賞まちなみ景観部門で建築デザイン賞を受賞しています。

●三宜楼の保存活動

三宜楼（木造3階建て：昭和5年3月建設）はレトロ商店街を通り、坂を登った小高い場所にあり、当時の門司港の繁栄が偲ばれる威厳のある木造建築です。

この三宜楼が2005年2月に不動産会社に売却、解体されるという話があがりました。その1年後の2006年3月に「まちなみづくり協議会」が中心となり「三宜楼を守る会」を設立し、地域一丸となって三宜楼を救う活動を行ったそうです。2007年3月には募金1,700万円を集め、12月には北九州市に保存活動に対する要望書を提出、その結果として「旧料亭『三宜楼』修復及び活用等」は北九州市の事業として推進され、今に至っています。現在は、展示室や貸間として活用されるほか、1階には河豚専門の料理屋が入店し、営業しています。

歴史的な建造物は、解体されてしまえば、コストと手間を掛けない限り二度と全く同じものはできません。この建物を見て、保存活動の物語を聞くと当時の関係者の保存に対する熱い思いが伝わってきます。

●西日本で最初の鉄筋コンクリート造、内装は純和風の旧秋田商会ビル

塾の2日目は関門連絡船で下関側の唐戸棧橋に渡り、午前中に赤間神社、日清講和記念館、旧下関



秋田商会ビル1階、洋風の事務所

英国領事館、下関南部町郵便局、旧秋田商会ビルを視察しました。唐戸地区には明治から大正期の貴重な建物が残されています。その中でも明治後期から木材取引などで商社的な活動と海運業を営み、台湾、朝鮮半島、満州に進出し、財を成した秋田商会のビルは一見に値する建物でした。以前、TV 東京の「美の巨人」で放映されていたのを覚えていて、一度は現物を見たいと思っていた建物でした。下関観光ガイドブックによると大正4年竣工、西日本で最初の鉄筋コンクリートの建物です。設計は西澤忠三郎技手（技師の下に属する技術者）。記録によると西澤氏は文部省に雇われ、九州大学を建設した事務所に所属していたとなっています。

この建物の1階だけは洋風の事務所となっていますが、2～3階の住居には書院造りが取り入れられ、和洋折衷のデザインです。2階にあがると、いきなり純和風の広間が飛び込んでくるため、鉄筋コンクリートの建物であることを忘れてしまいます。屋上には上がりませんが、記録によると屋上は庭園になっており、屋上から海峡の景色をみながら宴会をしていたそうです。

見学会とワークショップを終えたあとは唐戸市場で海峡の船を眺めながらフグ定食を食べ、2日間の関門ウォッチングはお開きとなり、帰路につきました。「九州まちづくり塾」に参加すると、普段の観光では見られない歴史的な建造物やまちなみを視察し、地域の課題を話し合うことで、刺激を受けることができます。来年の担当県は宮崎県、場所は未定ですが、楽しみにしています。（やまだ たつお）



秋田商会ビル3階の書院造りの大広間

近 況

秋の霧島・白鳥山登山と焼酎蔵を楽しむ

一昨年から大学の先輩・後輩たちと低山登山を楽しんでいる。一昨年は台風の影響で九重登山ができなかったが、昨年は5月に雲仙・多良岳に登り、多良岳から眼前に迫る普賢岳の迫力に感動した。

昨年は11月2、3日の旅程で霧島と周辺の観光地を見て回った。一日目は新幹線で鹿児島に入り、嘉例川駅（明治36年開業の木造駅舎で当時の姿を残している駅）、みやまコンサートホール（楨文彦氏設計、1994年竣工の音楽ホール）を見学後、霧島登山口のえびの高原駐車場から白鳥山に登った。その後、麓にある火口湖の白紫池、六観音御池を周り、秋の紅葉を楽しんだ。

現在、霧島は噴火の影響のため、韓国岳、新燃岳は入山禁止となっており、今回は老齢化したメンバーの体力のこともあり、白鳥山登山と火口湖の周遊となった。

学生時代には、友人らと霧島縦走を2回行ったので、私にとって霧島は思い出深い山である。

当時、縦走したときは苦しいと感じた覚えはないが、今は到底、縦走できる自信はない。当たり前であるが、当時は体力があったのだなあと、時の経過を実感する。

●道路沿いに駐車する車の列

二日目は、折角霧島まで来たので、霧島神宮、上野原縄文の森、蒲生の大楠、白金酒造の石蔵ミュー



白鳥山登山中腹にある展望台から韓国岳を望む

ジウム見学と欲張ったコースを組み込んでいたので、朝は8時の出発となった。

登山口の駐車場は、既に満杯となっていた。さらに登山口に続く道路沿いの両側には車が列をなしていた。天気も良かったこともあり、この時期の霧島の紅葉を楽しみたい人の多さに驚いた。

コロナ禍明けと円安の影響で日本国中、インバウンドで観光地は賑わっているが、霧島も例外ではなく、外国の登山者も多く、登山途中では5～6組の欧米人のグループに出くわした。

●白金酒造の木樽仕込みの焼酎

始良市重富にある白金酒造は明治2年創業、昨年で創業156年目と古い酒造所である。明治10年の西南の役では薩摩軍兵士の気付け薬、怪我を負ったときの消毒液として蔵の焼酎を買い占めたとの話が伝わっている。銘柄では「白金の露」「石蔵」が有名である。白金酒造は、昔ながらの製法である木樽で焼酎を蒸留している。

折角なので、値段も普通の焼酎より倍近く高かったが、日本焼酎学会のメンバーとしては試してみる必要があると思い、木樽焼酎「石蔵」を購入した。

週明けに事務所所員と一献傾けた。焼酎「石蔵」は、芋の香りもしっかりしており、まろやかで美味しい焼酎であった。

今年の春、先輩・後輩たちとはどここの低山登山を登るのか思案中である。

今年も焼酎蔵巡りと低山登山を楽しみたいと思っている。

(山田 龍雄)

■ 向田邦子氏のエッセイ

～「わたしと職業」に共感～

通勤の行き帰りに気楽に読める本ということで、今まで本棚に埋もれていた「向田邦子のベストエッセイ集」を何気なく取り出した。これまで飛び飛びしか読んでなかったのであるが、面白くて完読した。

この「ベストエッセイ集」のなかで非常に共感したのが「わたしと職業」というエッセイである。

向田氏は大学を卒業してから出版社に勤め、映画雑誌の編集をしていたが、当時凝っていたスキーに行くにはアルバイトで稼ぐしかない。そこで知り合いから「テレビの脚本を一本書くとスキーに行けるよ」という甘い言葉に誘われて、書いた脚本が採用された。これが脚本家「向田邦子」誕生の始まりである。3年間の兼業ののち会社をやめて独立されている。

このエッセイに、自分の職業感について次のように書かれている。私だけでなく、多くの人が共感するのでないかと思う。

「週刊誌のルポライターやラジオなど寄り道もしたが、8年前からテレビだけに切りかえた。かれこれ500本近いドラマを書いてきた。(途中略) 極楽とんぼの私でも困ったなあ、と思うことも何度かあった。そういう時は、少し無理してでも自分の仕事が面白いと思うようにしてきた。(中略) どんな小さなことでもよい。毎日何かしら発見し、「へえ、なるほどなあ」と面白がって働くと、努力も楽しみの方に組み込むことができるように思うからである。(中略) 一日一善ではないが、一日にひとつ、面白いことをみつけて、それをよりどころにして 真剣半分、面白半分で脚本を書いているのである。」

小生も40数年間、住宅計画を中心として都市計画、総合計画、産業振興、観光振興計画、福祉関係の計画等、いろんな分野の仕事に携わってきた。特に仕事の中では委託者もアウトプットのイメージが明確でなく、こちらを受託者としてのアウトプットのよりどころがない場合、計画づくりが迷走し、渦巻き状の坂道を上がったり、時には降ろされたりすることがある。

この場合、向田氏の言うように、苦しいなかでも、他の人の力も借りながら、出来るだけどこか一つで

も新しいこと、面白いことに取り組んできたように思っている。

当時、アルパック九州事務所長であった糸乗さんから「仕事で遊ぶようにならないとあかんで・・・」と言われてたことも影響しているのかも知れない。

アウトプットが見定められない仕事は、何か新しい試み（データの見せ方の工夫、先進地や専門家など多方面へのヒアリング等々）をしないと道筋が見えないので、あえてチャレンジした結果が「面白さ」につながったこともあった。向田氏が言うように「仕事のなかで楽しみを見つけること、面白さが見つかった

こと」で救われてきたように思う。逆に言うと、これまで取り組んでこなかった新しい業務の調査・計画策定では「知らないことを知ること」の面白さ、「魅力的な人・面白い人」との出会いがあったからこそ、これまで仕事を続けてこれたのではないかと思う。

コンサル業は社会的な課題、地域が抱えている固有の課題がある限り必要とされる職業である。あと何年、弊社で働くことができるか分からないが、在籍するうちは、これからも仕事の中で少しでも「楽しさ」「面白さ」を見つけて働きたいと思う。

（山田 龍雄）

総 婚姻と子ども育成支援

独身生活者研究者の荒川和久氏は、『少子化とは「母親となる対象の女性人口の減少」と「婚姻数の減少」の2つの減少によってもたらされている構造上の問題である』と言う。つまり人口減少により「母」となる人の減少に加えて、婚姻率が低下していることで「出生数」が減少しているということである。1婚姻当たりの出生数は、1990年代から1.5人程度で大きくは減っていないという。（令4.8.14、東洋経済オンライン「若者の非婚化」を後押しする日本の絶望未来」）

全国の自治体の公募情報では、昨年は子ども育成に係る案件が、定期的更新時期を迎え、令和4年に「こども家庭庁設置法」「こども基本法」が施行され、

「こどもまんなか社会」づくりのための政策実施にもより、更新計画での新たな取組などの提案が期待されていたのかしれない。いずれにしろ、地域で安心して子どもを生み育てられる社会づくりは大変良いことであり、子どもだけでなく障がい者、高齢者もみんなが安心して生活できる社会づくりは、高齢社会の進捗とともに増々重要となっている。冒頭にあげた「婚姻数の減少」について、結婚や出産に関するデータを国立社会保障・人口問題研究所の『出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）』の1997、2021年をみてみた。

図1は、未婚者に対して「結婚相手の条件として重視すること」の回答の割合である。対象年齢は、18歳から34歳までの男女である。「人柄」が、男女に

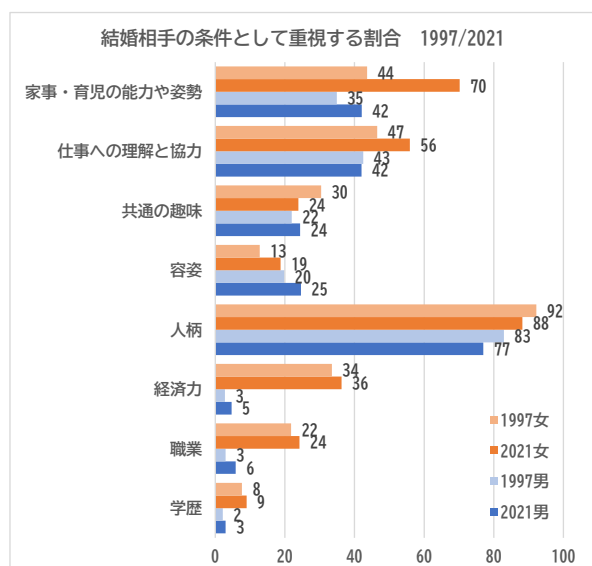
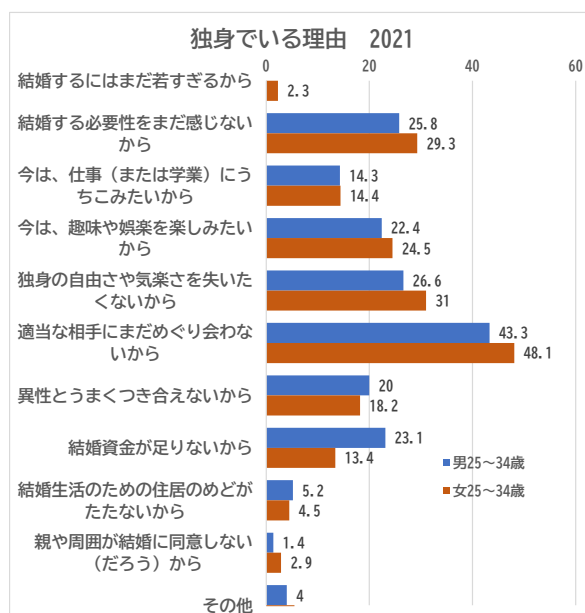


図1（上）：結婚相手の条件として重視する割合

図2（右）：独身でいる理由



関わらず、大きな割合を占めているものの、それぞれポイントは下がってきている。大きく変わった特徴的なものは、2021年女性が「家事・育児の能力や姿勢」を支持する割合が44%から70%へと高くなっている点である。さらに、「仕事への理解と協力」についても47%から56%へと上昇しており、家事育児の協力や仕事に対する男性の理解への要望が高まっていることがみえる。子ども育成支援の環境づくりには、家庭内での夫婦間の協力や理解を進める取組も必要と思われる。

一方、図2は、未婚者に「独身でいる理由」を聞いている。理由は男女ともに大きな違いは見られないが、相手が見つからないというのがそれぞれ半数近い。違いとしては「結婚資金が足りない」という点で10ポイントの差がある。経済力を結婚条件とする女性が多いことの裏返しであろうか。

男性の非正規、無職の未婚率の問題だけでなく、正規雇用女性の未婚率の上昇など、多様な要因を丹念にみて問題を発見していくことが重要である。

今年も、複眼的思考で問題解決にあたっていきたいと思います。 (山辺 真一)

オタ活復活！

航空オタ11年目に突入しました。コロナで色々制限されてきた航空自衛隊の航空祭も制限なしで開催されるようになりました。

●念願の異機種大編隊飛行

昨年は松島基地と初めて岐阜基地の航空祭に行ってきました。岐阜基地には飛行開発実験団という航空機や航空装備品に対する試験等を実施する部隊があり、そのため色々な機種の航空機が配備されていて、航空祭ではそれらの機種での大編隊飛行が見られます。

航空祭当日は曇りでしたが、初めて岐阜基地ならではの異機種による大編隊飛行を見ることができ、ブルーインパルスも当日と前日に晴れた中での予行が見られたので大満足でした。

●念願の石垣島

昨年ダイビングをしに初めて石垣島に行ってきました。目的はマンタだったのですが、北風のせいでマンタポイントに行けず、見ることはできませんでし



岐阜基地ならではの異機種による大編隊飛行。機体はC-2、T-4、F-2、F-15

た。代わりにウミガメポイント（とガイドの方が言っていた）に行き、ウミガメを近くで見えました。いつものごとく初めはビビってしまいましたが、何とか1本目から潜ることができ、2ダイブ楽しみました。

石垣島でおすすめなのは、1日目マングローブカヤックをしたのですが、履いていたサンダルが濡れて中々乾かなかったので急遽現地で買った「島ぞうり」というビーチサンダルです。安い物は600円程で購入できます。ビーチサンダルは鼻緒の所が痛くなるので苦手なのですが、島ぞうりは痛くならず履くことができました。

ピーチが福岡から石垣への直行便を運航してくれるようになったおかげで安く行けるので、マンタを見るまで石垣島に通おうと思います。今年もよろしくお願いします。 (佐伯 明日香)

地域資源を活かし域外から稼ぐご支援を

新年、あけましておめでとうございます。

昨年を振り返ると、よかネット151号でご紹介した「複数施設のグーグルマップ口コミ収集・分析ツール」を作成しました。観光地に立地する金融機関から依頼を受け、融資先企業の口コミ分析という新しい分野の業務に挑戦し、無事に業務完了しました。

今年は、このツールを活用し、九州内の某県内全域数百～千ヵ所の観光スポットの口コミ調査や、在阪鉄道会社の面的エリア開発を見据えた基礎調査業務に取り組む予定です。

また、2016年以降、取り組んできた観光人流データ関係の業務については、ネットワーク会社である

(株)地域計画建築研究所や、様々な領域の業務を一緒にしている通信キャリア企業様とともに、北海道、関東、関西など国内各地へ、少しずつエリアを拡大しています。

今年も、こうした継続的なサービス開発やサービス保守体制の確立、業務ノウハウの共有、ならびにエリア横展開に取り組み、より安定的に観光データ分析業務を受託できる体制構築に取り組みたいと思っています。

また、これまでの業務の棚卸しとして、20 年間にわたり業務を一緒にさせていただいている村上和夫立教大学名誉教授とともに、書籍を作成するプロジェクトを進める予定です。

40 代も後半戦に入り、いつまで成長できるか不安な気持ちもありますが、所員や先生、パートナー企業の皆様とともに、引き続き着実に新たな階段を登る一年にしたいと思います。

今後とも、観光振興や物産の販路開拓など、域外から稼ぐ業務分野を中心に、環境や施設開発など領域を拡大したいと思います。ご一緒いただける皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(原 啓介)

総 あけましておめでとうございます

毎年、新年号は今年の抱負を書いていたように思う。かつ、頑張って体重を維持、ないし、落とす宣言をしていたように思う。今年も、同じ内容とすると、はたまた、いい加減内容を変えてもよいかなと思ひながら、この文章を書いている。

昨年 40 歳になり、今年 41 歳になる。この1年で感じたことは、明らかに 30 代とは持続力が落ちていること。変化への感度も若干鈍くなっていると思う。

前者については、いろいろな業務に携わらせてもらい、その中で様々な作業をしているわけだが、1つのことをずっとする力は落ちている。一方で、瞬発力は上がったような気がしていて、最初のアウトプットを出したり、何かをまとめたりするというのは以前よりも早く、正確にできるようになっていると思う。それだけ経験値を積んだということか。

後者については、日々、新しいものが生まれては

消える社会において、情報のキャッチアップは継続的にしなくてはいけないものの、有象無象の情報が溢れている中で若干溺れ気味なところもある。とはいえ、「現場に出て、現場から情報を仕入れて、良い所、悪い所を整理し、それに対する対応策を考える」というのが基本であるから、新鮮な情報は適度に入れつつ、現場に出る回数は落とさないようにすることが重要だろうと思っている。

これまで、本当に様々な分野に関わらせてもらった。フェイスブックにも書いたことがあるが、ある後輩が「山崎さん、1 人総合計画ですね」と言ってくれた。都市計画からはじまって、景観計画、住宅計画、交通計画、コミュニティ計画、商業活性化計画、防災・減災計画、介護保険事業計画、子ども子育て支援事業計画、健康づくり計画、観光振興計画、公営住宅等長寿命化計画、そして総合計画 etc もちろん、すべて 1 人できるわけではなく、先輩、後輩、協力会社の人との協働によりできるものだが、一通りはやってきた。引き続き、このスタンスを続けていくのか、あるいは、分野、対象を絞っていくかは、ここ数年のテーマである。何となく、絞ってきているが、まだ明確ではない。ご相談を受けたり、お話をきいていただいたりするうちは、やれることをしっかりと提案し、やっていければと思う。おのずと、絞られてくるだろうから、無理に絞る必要はないというのが現状だろうか。

なんだか、今年の抱負になってしまった。こういう風に仕事を続けられるのは、家族(妻、長男・長女)の理解と協力あつてのことなのでその感謝を忘れることなく、今年も諸先輩方、仲間のみなさん、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

追伸:体重は 80 ~ 82 キロを維持することを目指します。
(山崎 裕行)

総 今年こそは、「酒まつり」!

行った年をふり返り、心残りは多々あるものの、今年でも実行可能で、優先順位の高いものを御紹介いたします。

●西条の酒まつり

きっかけは、知人が「行ってみてすごく楽しかった」と教えてくれたことでした。何かというと、広島県東



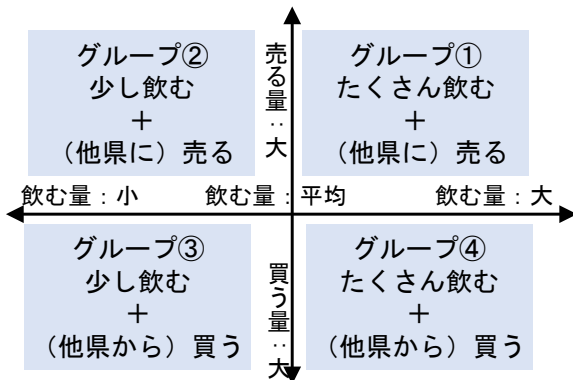
「よし行こう!」と思ったものの、web サイトの情報もまだ公開されておらず、「少し先の話だ」と捉えてしまい、そのまま記憶の片隅に…。思い出したのは、実施日の1週間後でした。残念なことでしたが、今年は取り返す所存です!

マップの通り、JR 西条駅前に複数の会場が設けられていますが、行った人の話によると「町じゅうがおまつりで、どこででも飲める」そうです。マップに記載の会場以外にも屋台等も出ているようです。GoogleMap で確認すると、最も遠い「サタケ会場」まで JR 西条駅から徒歩約 15 分ですので、お酒を嗜むのに適したウォーカブルで連続性のある会場構成で、イベントの楽しさがどこででも感じられる密度なのでしょう。

灘、伏見、西条は日本三大酒どころなのだそうです。灘、伏見は知っていましたが(記憶が正しければ中学校の社会科の時間に先生が話していました)、

上記の通り、生産量1位は兵庫県、2位は京都府ですが、どちらもテレビのコマーシャル等でもおなじみの酒造会社が含まれています。兵庫県の灘エリアでは菊正宗、大関、沢の鶴、日本盛など、また京都府の伏見エリアでは月桂冠、黄桜など、九州のスーパー等でも手軽に入手できる幅広い品ぞろえを誇る酒造会社が多く存在します。

グループ①：秋田県、山形県、高知県、山口県
グループ②：山梨県、京都府、兵庫県、新潟県



都道府県 4 区分の枠組み

グループ③：福井県、北海道、熊本県、埼玉県、福岡県、宮崎県、愛知県、大阪府、鹿児島県、千葉県、沖縄県、長野県

グループ④：①～③以外

分かりやすくするためネーミングすると、下記の感じでしょうか。

グループ①：「飲みながら売る」

グループ②：「飲むより売る」

グループ③：「作らず嗜む」

グループ④：「作らず大酒を飲む」

さて、なにがしかの分類をして少しばかり気分はすっきりしたのですが、「なぜ西条は酒どころなのか？」については依然すっきりしません。

●醸造技術におけるイノベーション

答えの一つと思われるものを広島県の web サイトに見つけました。一言でいえば、醸造技術にイノベーションをもたらした先人たちがいたということです。

●三浦仙三郎氏による「改醸法実践録」

明治になって酒造会社が数多く創設されましたが、酒造技術を持たないため廃業するものも数多くあり、また、広島を含む瀬戸内沿岸の水は日本酒の醸造には必ずしも適していない軟水でしたが、三浦氏はあきらめずに課題を克服するべく技術の改善に努め、研究成果を「改醸法実践録」としてまとめて業界に共有しました。この書物は、国立国会図書館のデジタルアーカイブでも見ることもできます。

●佐竹利市氏による酒造用精米機の開発

明治期の酒造に関する他の課題は、米の精米方法でした。主な動力は水車でしたが、適した河川が少なく人力に頼るものだったそうです。そこで、佐竹

利市氏が動力式精米機の開発に取り組み、1896（明治 29）年日本初の動力式精米機を生み出しました。これは、今も人気の高い吟醸酒の製造につながるものだそうです。創設した精米機製造会社は、現在は株式会社サタケとして西条に事務所を置いています。

●醸造技術の改良・発展とともに人材育成

その他、醸造技術の改良等に貢献するだけでなく、人材育成に努めた橋爪陽氏（広島県工業試験場（現 食品工業技術センター 初代醸造部長）、三浦仙三郎氏が生み出した醸造技術を広めるため、西條酒造学校を創立した木村静彦氏（賀茂鶴酒造株式会社創設者）などが技術の普及、人材育成に努めたと記されています。

●先人たちの努力は第一回全国清酒品評会受賞で結実

広島での酒造は主に明治期に始まったものでしたが、1907（明治 40）年に行われた第 1 回全国清酒品評会では、長い酒づくりの歴史をもつ灘や伏見を抑えて受賞しました。

●課題を克服する知恵と酒造への貢献

どうやら、西条を酒どころとして認識させているのは、生産量や消費量等ではなく、酒づくりを通して培われたチャレンジ精神、課題を克服する知恵、それぞれの知見を共有する利他精神なのかもしれません。

少し下調べができたところで、今年こそは「酒まつり 2024」に行きたいと思います。顛末記はまたよかネットで御披露します。今年もどうぞ宜しくお付き合いください。

●おまけ

御紹介した内容に関するものや、酒づくりに関して素人が見ても面白いサイトがありましたので御紹介します。

- ・国立国会図書館デジタルアーカイブ「改醸法実践録」：<https://dl.ndl.go.jp/pid/847977/1/1>
- ・広島県食品工業技術センター「広島日本酒造りを支える試験醸造」：<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/26/jouzou.html>（面白いことに、このセンターは、清酒の製造免許を有していて、公設試験研究機関で唯一、試験醸

造酒を独自銘柄「明魂」として販売しています)
 ・独立行政法人酒類総合研究所（広島県東広島市にある研究所）
 「お酒のはなし（情報誌）」：<https://www.nrib.go.jp/sake/story/>
 「日本酒ラベルの用語辞典」：<https://www.nrib.go.jp/sake/nlziten.html>・（株）サタケ
 技術情報誌 Vol.34 号（特集「酒と酒造精米の歴史」）：https://www.satake-japan.co.jp/activity/publicity/pdf_tasty/tasty34.pdf
 ※ URL はすべて令和 5 年 12 月 6 日時点確認
 （福吉 聡子）

新しい年のはじめに

昨年の秋の行楽シーズンは、観光地に観光客が数多く押し寄せる、いわゆるオーバーツーリズムが発生しています。日本有数の観光地である京都では、移動手段である路線バスが混み合い、一般市民の生活にも影響が出ているとニュースで報道されていました。

この要因の一つとして考えられるのは、訪日外国人観光客の増加であり、2023 年 10 月の訪日外国人客数は、コロナ前の 2019 年よりも約 2 万人上回ったと発表されました（参照：訪日外客統計（日本政府観光局、2023 年 12 月 4 日閲覧））。

人流がコロナ前以上に活発になりつつあるのに伴い、観光地における観光客の来訪状況や観光地間の周遊状況を把握する方法として、スマートフォンなどの GPS データ（位置情報データ）を用いた人流分析が増えています。当社では、観光地や交通拠点となる主要駅等への来訪者の分析業務を行っており、私自身も人流分析の業務に数多く携わっています。

人流分析は、観光地に訪れる観光客の属性やコロナ前後の変化、観光地間の違い等の分析・発見だけでなく、地域の課題解決に向けた方向性や取組等を提案することが重要です。業務全般に提案する力は必要であり、その部分がまだ足りていないことを痛感しました。

今年は課題を踏まえ、提案力向上に努めます。そのためには、今まで以上に知識の蓄積を行い、相手に伝える力も重要になります。業務を通して発表

する機会がありますが、業務以外でも積極的に参加し、発表の機会をつくっていきたいと思います。また、業務のスケジュール管理が不十分な部分があったので、業務ごとに短中長期的に到達目標を設定して適切な業務管理に努めます。そのためにも、業務の効率化を常に意識し日々過ごしたいと思います。

最後に、昨年秋に引越を行いました。新しい環境での生活がスタートしたので、心機一転、運動を本格的に再開したいと思います。毎年、健康診断で運動不足と注意を受けているので、運動不足脱却に向けて定期的かつ継続的な運動に取り組みたいと思います。

今年一年、充実したものにできるよう精進いたします。皆さまのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。
 （益戸 亮平）

福岡愛が芽生えた理由と今年度の目標

新年あけましておめでとうございます。昨年は九州の様々な場所を訪れることができました。福岡にきて早 1 年 4 カ月で沖縄県以外の全県を周れたことで、地域に触れることができ、今まで遠い存在であった九州の各県の輪郭をつかむことができたように思います。

福岡に来て考えるのが、なぜ私は今福岡が好きになったのか、その理由は何かということです。

愛知に住んでいたころは、利便性がよく個性的な食と歴史はあるが、それほど街に愛着を持ってませんでした。人に住むことを勧めたいとも思いませんでした。福岡にきて、地域に入る仕事に移ったことも大きな理由ではあると思いますが、福岡が好きと自信を持って言うことができるようになった自分に驚いています。

よく言われる要素ではありますが、食と人と自然と車なしでも生活のしやすい交通網が私の中では大きいです。家から海まで歩いて行けて、会社帰りは川沿いのイルミネーションを楽しむことができます。日常の中でふとした癒される風景が多いように感じます。自分の感じ方なので、福岡が、愛知が、とははっきりとは言えませんが、日常的な小さな心地よさと楽しさが積み重なって福岡愛が生まれるのではと体感しています。

昨年の仕事については、計画づくりの全体像を理解すると息を巻いていたのですが、イベント仕事に追われて中途半端な状態になってしまったと反省しています。まずは残り3カ月、今もっている仕事を誠実にやりとげ、今年は集中して1本の計画を作り上げるところまで携わります。

(酒見 知里)

昨年の振り返りと今年の抱負

よかネットをご覧の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様は昨年をどのように過ごされましたか？昨年の振り返ると、私にとっては人生の転機が訪れた年でした。大学を卒業して早くも3年が経ち、紆余曲折ありながらも、前職を退職し、よかネットで働くことになりました。昨年は4カ月しかよかネットでは過ごしていませんが、それでも、様々な仕事を経験し、充実した日々を過ごす事が出来ました。また、鹿児島から大学時代を過ごした福岡に引っ越したので、学生時代の友人や恩師にも再会することができ、学生時代を思い出した年でもありました。皆様も年末になると一年を振り返る機会が多いと思いますが、同時に次の年はどのように過ごすのか考える方も多いと思います。私は毎年、一年間の目標として、気持ちを込めて漢字一文字で表す習慣があります。昨年は変化に対応し変わることができ、さらに自分だけでなく周りにも影響を与え変化させることができるようにという意味を込めて「変」という文字を掲げていました。今年は何を目標にしようかと考え、「挑」という漢字を目標として掲げようと思います。「挑」という漢字は、挑戦や挑むなどに使われ、多くのことに挑み続ける一年にしたいという気持ちでこの漢字を選びました。内容として、現在は一級建築士の勉強中のため、資格取得に挑戦するという意味です。一級建築士の試験は学科試験と設計製図試験の2部構成で行われており、学科試験に合格しないと設計製図試験を受験できません。昨年の学科試験合格率は16.2%となっており、製図試験は例年35%前後です。今年は気合をいれて挑戦します。

次に、仕事に対して常に挑戦し続けたいと思います。入社時期が昨年9月であったこともあり、多くの

プロジェクトは途中から参加することとなりました。

今年はプロジェクトスタート時から関わり、終わるまでを通して経験できる機会なので多くのことを学びながらも多岐にわたる業務に挑戦したいと考えています。普段は主に建築に関わる業務が多いですが、社内では観光や環境、福祉に携わる業務もあるため、そちらにも積極的に関わっていきたいと思います。

最後に、今年はダイエットにも挑戦したいと思います。長期休みは食事に出かける機会が多く、体重が増加する為、今年は太りにくい体作りに挑戦したいと思います。目標は-15キロで、来年のよかねっと新年号はスリムな私が記事を書いていると思います。

皆様も今年の目標を漢字で表して、一年を過ごされてみてはいかがでしょうか。

(宮川 武大)

移動スタイル変わってきてます

新年、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、一昨年度からいわゆる MaaS 関連の業務を担当する機会をいただいています。

「MaaS」は「Mobility as a Service」の略で、直訳すれば「サービスとしての移動」、個人の移動ニーズに対応しつつも、複数の公共交通やその他のサービスを組み合わせることで、検索・予約・決済等を一気通貫で提供するサービスであり、これまで自家用車等の“所有”に頼っていた移動からの脱却を図るものです。(なお、パークアンドライドなど、自家用車も MaaS の組み合わせの選択肢となるので、単に自家用車を排除するという事とも異なります)。

MaaS の概念などは多くの文献に語られていますので、ここで深掘はしないのですが、業務の中で様々な MaaS サービスに触れる機会があり、好し悪し含め、ここ数年、食わず嫌いせずに実体験してきたところです。

個人的には、自家用車が一家に一台ではなく、一人に一台という環境で生活をしてきたので、移動のファーストチョイスは今でも自家用車ですが、それでも MaaS に携わるようになり、選択肢の幅は広がっていると感じます。

●バスは意外と怖くない！

特に個人的に大きく変わったのが、バスに乗る抵抗感が下がったことです。ご存じの方も多いかもしれませんが、福岡は日本有数のバス王国。県内全域を走っている西鉄バスは、グループ全部を合わせると日本一のバス保有台数を誇ります（ちなみに単一企業だと神奈川中央交通バスだそうです）。

それだけバスが多いと、発地の違う博多駅行のバスが3台連なってバス停に停まっていたり、快速に乗って最寄りのバス停を通過したり、果てには都市高速に突入したり、知らない人や乗りなれていない人には複雑怪奇に感じられるのもしかたないですし、西鉄バスに限らず、慣れないバスに乗ることの抵抗感は大きいと感じますし、何ならちゃんと目的の場所で降りれるかも不安になります。

余談ですが、都市高速を路線バスが立ち乗りの乗客を乗せて運行しているのは全国的にも珍しいようです（なぜそのような運行ができるのかは西鉄のオンラインマガジン「N×」で紹介されていました URL: <https://nnr-nx.jp/article/detail/109>）。

私も意を決してバスに乗るようになるまでは、そのような不安感からバスを使わないルートを選択していましたが、いざバスに乗ってみれば、電車よりも時間はかかっても目的地の近くまで連れて行ってくれたり、車窓からの景色を眺めていると、普段自家用車で通りなれた道でも新たな発見があったりと、バスの便利さ・面白さに気づかされ、今では電車よりもバスをファーストチョイスにするようになりました。

その一助となっているのが、リアルタイムのバス時刻表です。これは西鉄バスに限らず、全国のバス会社でも導入が進められています。が、“今”乗りたいバスがどこにいるかを教えてくれる仕組みです。これがあれば、乗ろうとしているバスが定刻に来なくても、それが通過してしまったのか、あるいは遅れているのか、遅れているならあとどれくらいで到着するのかの見通しを立てることができるようになります。このシステムを活用するようになってから、バス停で待つ不安感がかなり解消されました。

また、知らない街でバスに乗るときに活用しているのが、GPSと連動したスマホアプリです。このア

プリは、降車したいバス停（ランドマークでも可）を中心に、任意の半径円以内に入った時に、スマホに通知をしてくれるものです。これをバスに乗ってからセットしておく、あと何停留所でおりにないといけなのだろうという不安やバスのアナウンスにじっと耳を傾けておくこともかなり軽減されて、考え事や車窓からの景色に意識を向けられるようになりました。このアプリに関してはバス停だけでなく、鉄道駅などでも設定できるので、寝過ごし防止などにも活用できます。検索をするといくつかフリーのものもありますので、試しに使ってみてはいかがでしょうか。

さらに最近ではバスだけでなく、シェアサイクルも活用しています。福岡市ではチャリチャリのポートがかなり整備されていることもあり、気軽に乗って気軽に返すということが非常にやりやすく、街中で利用している方も増えているように感じます。実際に自分が使ってみると、公共交通では渋滞やルートの関係で大きく時間がかかる場所でも、存外すんなり到着することができて、利用する機会も増えています。

●とはいえもう少し辛いところに・・・

様々ツールを使いながら、徐々に公共交通を利用する機会も幅も広がってきているのですが、まだまだ伸び代はあるのではと思います。例えば、九州一円で利用が拡大しているMaaSアプリに「My route」があります。この中でバスの1日乗車券が販売されているのですが、当然ながら遡っての適用はできません。これが1日で一定の利用に到達すれば自動で定額に切り替わるとかであれば使い勝手が良いのになと思うこともあります。

また、乗り換えをした方がスムーズに目的地に到着できるケースも多いのですが、そうすると初乗り料金が新たに発生したり（それでも乗り継ぐことも増えてきているのですが）、さらには普段はApple Watchに入れているSuicaで乗り降りしているのですが、それが前述の企画乗車券に対応してくれたら良いのになと思うたりする次第です。

しかしながら、着実に利用可能なサービスやツールは広がっていますし、もっとそれらの認知度も広がって、さらに使い勝手が良くなっていけばいいなと思った師走のバスの車内でした。（櫻井 恵介）

お 知 ら せ

総 勝馬ルシェを開催します！

今年度、福岡市からの委託を受けて、志賀島と北崎における農山漁村地域の地域特性を活かした農林水産業及びその関連ビジネス創出に向けた新たなチャレンジを支援する業務をお手伝いしています。

志賀島地区では地元の産品を販売するマルシェ「勝馬ルシェ」の開催を支援しています。

勝馬ルシェは、第一回目を10月28日(土)と29日(日)の2日間で開催し、多くの方々にご来場いただきました。ご参加いただいた皆様、お越しいただきありがとうございました。

開催日当日はオープン前から多くのお客さんに来場いただき、オープン直後にはレジに長蛇の列ができていました。開催にあたり、地元の小学校へのチラシ配布を行ったこともあり、地域の皆様にも多くご来場いただきました。また、今回勝馬ルシェの会場は、海の家である喜多乃家で行われたので、海が近く、ロケーションもよいので、家族連れも多く訪れ、遊び場としても使われていました。レンタサイクルで島を一周している途中で立ち寄っていただいた方もいらっしゃいました。結果、第1回目にも関わらずレジ通過ベースで延べ350組以上の方に来場いただきました。

本事業は、志賀島の農産品を購入できる機会を増やしたいということがきっかけでした。そのため、勝馬ルシェの開催にあたり1番大事にしたことは「志賀島産を提供すること」です。これは勝馬ルシェの発起人である、志賀島で農業を営んでいる北本氏の思いでもあります。来場者アンケートでは「地元産の普段買うことのできない珍しい食材が買えてよかった」などポジティブな意見を多くいただき、志賀島産品の魅力を改めて伝えられた場になったのではないかと思います。

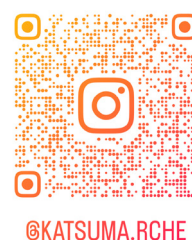
本稿が皆様のお手元に届いている1月には第二回目の開催も終わっているはずですが(12月23日、24日開催)。次回の開催は3月となります。ぜひ皆様のご来場をお待ちしております！ (酒見 / 櫻井)



～勝馬ルシェ 次回開催のご案内～

今回は3月23日(土)、24日(日)の11時～16時に喜多乃家(東区勝馬257-4)にて開催します。

春の野菜や志賀島産品を使った飲食店も並ぶ予定です。詳細については勝馬ルシェのInstagramをご覧ください。



編集後記

総 入社して初めてのよかネット編集で、分かりやすく伝えるための配置が、いざやってみると難しく、思い通りに進まなかったです。しかし、編集を通して、資料作成やメールなどの普段の業務でも意識すべき視点を学ぶことができました。(み)

よかネット No. 153 2024.1

(編集・発行)

(株)よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

<http://www.yokanet.com>

[mail:info@yokanet.com](mailto:info@yokanet.com)

(ネットワーク会社)

(株)地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6205-3600

東京事務所 TEL 03-5244-5132

名古屋事務所 TEL 052-462-1030